

好き嫌い。幾つになってもなくなる。嫌いな食べ物は、ピーマンどうしてこんな野菜をつくるのか？それからミョウガこれも嫌いだ。裏の菜園で招かざる客となっている。出来たら近所にあげて喜ばれている。

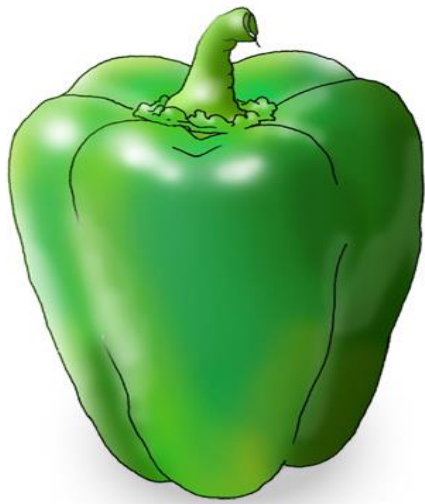
ニンジン ネギ など子供のころは「嫌い」でも大人になるにしたがってそれほど嫌いというわけでもなく食べられるようになった。

子供のときは嫌なものは嫌、絶対食べずにいたような気がするところが大人になってかわった、嫌いなものが出てきた場合時と場合によって対応がことなる。

家でその嫌いなものが出てきた場合かみさんの茶碗にほうりこむ、外食でそれが出てきた場合人の茶碗に放り込むなどはしない。どうするか、少しでもふところを痛めているなら目をつむってたべる。または飲み込む。

絶対に食べないなどはしない。意地でも食べる。

嫌いなものの中に紅ショウガがあった。小さく刻んであるが、辛い。たこ焼きに入れられている場合は仕方がないので食べる。寿司屋のガリは好きでよく食べるのにどうして親戚の紅ショウガはダメなのか。ミョウガはどうなんだ ミョウガが困るのは歯と歯の間に挟まって簡単には取れない。ピーマンは小さく刻むそれにグツグツと熱を加えてあれば本来の味が薄れ料理の味がまさるのでピーマンは刻んでください。



ピーマン



ミョウガ



紅ショウガ